

エポキシエマルジョン配合 素地調整材

ERプライマー

ERプライマーは、セメント系微粒子粉体と自己乳化型エポキシエマルジョンを組み合わせた、各種コンクリート施設の防食被覆工法等に使用される素地調整材です。

耐薬品性、接着性、施工性に優れ、エポキシ、ポリエステル、ビニルエステル等の防食被覆材の膨れや剥離を防ぎます。

※ポリエステル系、ビニルエステル系防食被覆材の施工については巻末の「使用上の注意」参照。

特 長

- ▶ 乳化剤を必要としないために、強制乳化型エポキシエマルジョンに比べ耐薬品性、耐水性に優れています。
- ▶ 特殊混和剤によりダレ防止を行っており天井、壁でも容易に施工できます。
- ▶ コンクリート面が乾燥・湿潤状態に関わらず優れた付着性能を示します。
- ▶ 水系エポキシエマルジョンであり有機溶剤等危険物を含まないため、消防法の規制を受けず、更には施工用具の汚れも水洗いで簡単に落とせます。
- ▶ 日本下水道事業団コンクリート防食指針(平成14年12月版)素地調整材1種品質規格に適合しています。

用 途

コンクリート防食被覆工法の素地調整用

- エポキシ樹脂ライニングの素地調整
- ポリエステル樹脂ライニングの素地調整
- ビニルエステル樹脂ライニングの素地調整

※防食以外を目的としたコンクリート被覆材(防水材等)の素地調整にもご使用できます。

● 荷 姿

ERプライマー	18.13kgセット	ER混和液	6.13kgセット
・粉 体	12kg	・主 剤	3kg
・主 剤	3kg	・硬化剤	3kg
・硬化剤	3kg	・硬化促進剤	130g
・硬化促進剤	130g		



配合及び材料使用量

①プライマー

プライマーは、ER混和液またはERシーラーのいずれかを選択できます。

・ER混和液

		配 合
ER混和液	主 剤	3kg
	硬化剤	3kg
	硬化促進剤	130g
標準塗布量		0.2kg/㎡
積算使用量		0.2kg/㎡

・ERシーラー

		配 合
ERシーラー		4kg
水		6kg
標準塗布量		0.2kg/㎡ (水を含む)
積算使用量		0.08kg/㎡

②ERプライマー(素地調整材)

	粉 体	ER混和液		
		主 剤	硬化剤	硬化促進剤※
標準配合	12kg	3.0kg	3.0kg	(130g)
塗布量(塗布厚)	0.9~1.8kg/㎡(0.5~1.0mm)			

※ 硬化促進剤は15℃以下の場合に使用します。

施 工 要 領

1.下地処理

脆弱層、付着物、ほこり等接着を阻害するものを除去し、清掃する。下地の巣穴は、ERプライマー固練り配合で予め充填する。
(ERプライマー固練り配合 = 粉体12kg : 主剤 2.5kg : 硬化剤 2.5kg(15℃以下の場合は硬化促進剤130g添加))

2.プライマー塗布

コンクリート等吸水のある下地の場合は、ER混和液またはERシーラーを塗布する。規定量を混合し、塗布は表面に浮き水がない状態で行う。ER混和液の養生は温度5℃以上、湿度70%以下とし、時間は以下表を目安とする。ERシーラーの養生は温度5℃以上で、指触乾燥するまで行う(塗布後1時間以上)。

※ 1 ER混和液の養生時間

温 度	5℃	10℃	20℃以上
養生時間	4時間以上	2時間以上	1時間以上

※ 2 ER混和液の成分は若干分離することがあります。容器を逆さまにして振ってからご使用下さい。
ER混和液の主剤、硬化剤は塗布直前に混合して下さい。混合したものは保存できません。

3.ERプライマー混練

規定量を計量し、まず混和液を攪拌する※。混和液を均一になるまで攪拌した後、粉体と混ぜ合わせる。材料全体が均一になったら過度の攪拌はしない。

※粉体の入った状態で主剤、硬化剤を攪拌すると、主剤、硬化剤が十分に混ざらず硬化不良を起こすことがあります。

4.塗 布

ERプライマーをコテで塗布する。塗厚は0.5~1.0mmとする。

5.養 生

雨水等水分との接触がないようにし、温度5℃以上、湿度70%以下で養生する。

性能

●性状

温 度			10℃	20℃	30℃
配 合	粉 体		12kg	12kg	12kg
	ER 混和液	主 剂	3kg	3kg	3kg
		硬化剂	3kg	3kg	3kg
		硬化促進剂	130g	—	—
可使時間			1.5時間	1.5時間	1.0時間
防食被覆材塗布可能時間※			16時間	18時間	12時間

※防食被覆材塗布可能時間は、湿潤面用プライマーを塗布する場合の目安です。防食被覆材塗布までの養生については防食被覆材メーカーのカタログ・施工要領書等に従ってください。

●日本下水道事業団コンクリート防食指針(平成14年12月版)素地調整材1種品質規格適合試験結果

項 目	試験結果	品 質 規 格
容 器 の 中 で の 状 態	異状なし	主剤、硬化剤とも、かき混ぜたとき、塊がなく一様なこと
混 合 性	異状なし	定められた調合比率で混合したとき、均質に混合すること
作 業 性	異状なし	作業に支障のないこと
軟 度 変 化(%)	2.5	-15～15%
接 着 強 さ(MPa)	2.60	標準状態: 1.5MPa以上
	2.72	低温状態: 1.5MPa以上
	1.35	吸水状態: 1.2MPa以上
耐 ひ び 割 れ 性	異状なし	ひび割れが発生しないこと
耐 衝 撃 性	異状なし	われ、はがれのないこと
吸 水 性(g)	0.28	1.0g以下
耐 久 性(MPa)	異状なし, 2.13	われ、ふくれ、はがれがなく、接着強さが1.5MPa以上
粉体に対する樹脂固形分(%)	17.7	5%以上
ポリマーセメント比(%)	36.9	15%以上
エポキシ樹脂の定性	存在を認める	エポキシ樹脂が存在すること

注) 上記は公的機関で試験を行った結果であり、品質保証値ではありません。

試験実施機関 (財)日本建築総合試験所

●各種下地との接着試験(20℃)

被着体 材 齢	コンクリート		エポキシ塗料	アクリル塗料	ウレタン塗料
	乾燥面	湿潤面			
7日	2.8	2.1	2.7※	1.2※	0.8※
14日	3.0※	2.4※	3.1※	1.6※	0.7※
28日	3.1※	2.8※	3.1※	1.8※	0.9※

※被着体(塗料の下地コンクリートを含む)の破壊

単位: N/mm²

注) 上記は当社実験室で試験を行った結果であり、品質保証値ではありません。

● 使用上の注意

- ・ご使用に際してはSDS(安全データシート)をよく読んで下さい。SDSの入手は購入先にご依頼下さい。
- ・取り扱い時は、保護手袋、保護眼鏡、防塵マスク等の適切な保護具を着用して下さい。
- ・製品は直射日光、湿気を避け5～35℃で保管して下さい。
- ・ERプライマーに水を添加しないで下さい。
- ・ポリエステル系、ビニルエステル系防食被覆材は、エポキシ樹脂硬化剤の未反応ポリアミンが原因で硬化不良を起こすことがあります。ERプライマーへの接着においても同様の不具合を起こすことがありますので、これらの材料を施工する場合は事前に接着試験を行って下さい。また、この不具合は、ERプライマーと防食被覆材の間にウレタンプライマーを塗布することで防げる場合があります。
- ・施工・養生中に5℃以下が考えられる場合は、凍害防止のため採暖を行って下さい。
- ・養生中に水分と接触した場合や高湿度で養生した場合に硬化不良、強度低下を起こすことがあります。養生中は水分との接触を避け、湿度70%以下に保って下さい。
- ・長時間の直射日光が当たる場合や強風の場合はシート養生を行って下さい。
- ・閉所で施工する場合は、換気を行って下さい。
- ・吸水しない下地の場合はプライマーは不要です。
- ・既存塗膜に塗布する場合は、既存塗膜が下地と密着していることを確認し、目荒らしを行ってから塗布して下さい。また、既存塗膜の種類や状態によっては接着しにくいことがあります。
- ・目に入った場合は、清浄な流水で15分以上洗眼した後、医師の診断を受けて下さい。
- ・皮膚に付着した場合は、付着物を拭き取り、水と石鹸で十分に洗い落として下さい。かゆみ・炎症が出た場合は、直ちに医師の診断を受けて下さい。
- ・廃棄する場合は、許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託して下さい。

● 本資料について

- ・本資料の技術情報は、当社の試験・研究に基づいたもので、信頼しうる情報と考えられます。しかし、記載の諸性能および特性などは、施工条件などにより本資料と異なる結果を生じることがあります。
- ・本資料の記載事項は予告なしに変更する場合がありますので、予めご了承下さい。

- 既存下地・施工環境・気候と様々な施工上の問題がありますので、使用の際は当社営業担当へご相談下さい。

代理店



特殊セメントの分野を大きくリードする

エレホン・化成工業株式会社
EREWHON

<http://www.erewhon.co.jp/>

● 本社・工場	〒870-0141	大分県大分市三川新町 1 - 2 - 23	TEL (097) 552-2251	FAX (097) 552-2213
● いわき工場	〒979-3112	福島県いわき市小川町上平字中平 30 - 3	TEL (0246) 83-2600	FAX (0246) 83-2677
● 大阪支店	〒532-0003	大阪府大阪市淀川区宮原 5 - 1 - 3	TEL (06) 6842-7500	FAX (06) 6842-7544
● 福岡支店	〒814-0151	福岡県福岡市城南区堤 1 - 9 - 10	TEL (092) 874-6990	FAX (092) 862-6398
● 関東支店	〒224-0003	神奈川県横浜市中区中川中央 2-5-13-3F	TEL (045) 534-9656	FAX (045) 534-9657
● 仙台支店	〒984-0012	宮城県仙台市若林区六丁の目中町 6 - 2	TEL (022) 287-7221	FAX (022) 287-7222
● 名古屋支店	〒463-0048	愛知県名古屋市中区小幡南 3 - 5 - 21	TEL (052) 758-1889	FAX (052) 758-1890
● 札幌営業所	〒007-0805	北海道札幌市東区東苗穂 5 条 3 - 2 - 32	TEL (011) 786-6051	FAX (011) 786-6052
● 新潟営業所	〒950-0963	新潟県新潟市中央区南出来島 1 - 10 - 23	TEL (025) 280-9282	FAX (025) 283-6262
● 静岡営業所	〒422-8058	静岡県静岡市駿河区中原 743 - 1 - 1F	TEL (054) 270-9380	FAX (054) 270-9381
● 北陸営業所	〒920-0027	石川県金沢市駅西新町 2 - 11 - 25	TEL (076) 204-9417	FAX (076) 204-9418
● 広島営業所	〒739-1731	広島県広島市安佐北区落合 2 - 41 - 22	TEL (082) 841-2350	FAX (082) 841-2360
● 熊本営業所	〒861-8045	熊本県熊本市東区小山 2 - 14 - 47	TEL 050-3399-7419	FAX (096) 388-6227
● 鹿児島営業所	〒890-0082	鹿児島県鹿児島市紫原 1 - 51 - 25	TEL (099) 284-0533	FAX (099) 284-0535
● ㈱エレホン・技研本社	〒781-0270	高知県高知市長浜 5 2 2 6 - 1 3	TEL (088) 805-2332	FAX (088) 841-2322
● ㈱エレホン・技研岡山営業所	〒791-8042	愛媛県松山市南吉田町 1 4 5 0 - 6	TEL (089) 974-8225	FAX (089) 974-8230